

労働安全衛生／化学物質リスク低減

2018年の主な取り組み／実績

予防処置や
体感教育を取り入れた
環境安全教育の
実施

化学物質取り扱い
作業における
リスク低減

基本的な 考え方

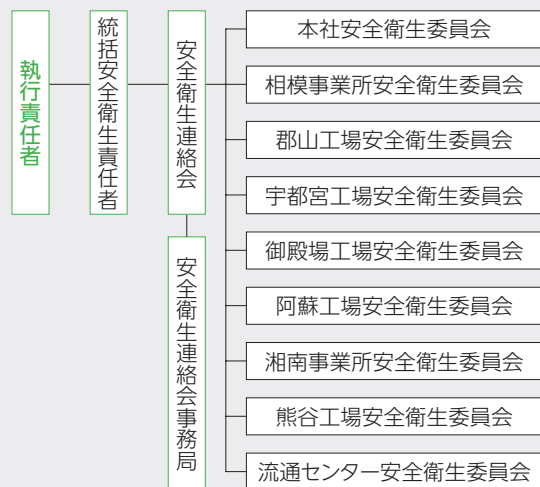
当社は労働安全衛生活動において、各拠点の安全衛生委員会の年間活動計画を基に、各種予防活動を実行しています。また、拠点単独では対応できない全社的な課題については、本社人事部を事務局とする安全衛生連絡会により検討します。安全衛生連絡会では、拠点を越えた水平展開が必要な安全衛生対策の実施状況についても情報を共有します。このような組織体制のもと、化学物質による薬傷災害や発火事故、機械や重量物による重篤な災害の予防へ向けた活動と、万が一労働災害が発生した場合の徹底した安全対策の実施と、その水平展開を進めています。

労働災害事例に基づく予防処置などの対策実施

当社では、労働安全衛生法で定められた各拠点の安全衛生委員会に加え、全社を統括する安全衛生連絡会を設置しています。総務本部長を執行責任者とする安全衛生連絡会では、拠点間の情報共有を図るとともに、全社での安全衛生活動を推進しています。今後は、労働安全衛生水準の向上と労働災害による事業継続リスクの低減を図るため、2018年3月に発行されたISO45001の認証取得に向けて、さらなる安全衛生体制の強化に努めます。

2018年は、同年発生した労働災害の是正対策を行うため、全拠点から安全推進リーダーを選出し、全工場の巡視を実施しました。この巡視活動により、全社での問題点の洗い出しと、求める安全対策レベルの擦り合わせを行い、全社共通の安全基準を制定するとともに、各拠点においては、安全基準に基づいた設備改善や作業手順の見直しを行いました。

労働安全衛生管理機能組織図



緊急事態対応訓練／環境自覚教育／事故防止対策 ガイドライン教育の実施

当社では、各拠点で運用する環境マネジメントシステムにおいて、緊急事態および地震等の自然災害を考慮した「潜在的な緊急事態の可能性」を明確化し、定期的な対応訓練を実施しています。また、当社の各拠点では多くの外部業者の方々が工事や機械のメンテナンス等を行っていますが、2018年は、これら外部業者の方々が作業を行う際の環境事故や労働災害の発生を未然に防止するため、全社共通のルールとなる「外部業者管理ガイドライン」の策定に着手しました。2019年にガイドラインを正式発行するとともに、ガイドラインに基づき、各拠点での詳細なルールを設定し、事故や災害の未然防止に努めてまいります。



郡山工場における訓練

腐食性が高い化学物質の取り扱いにおける リスク低減の取り組み

当社では、半導体関連品を製造する際、腐食性をもった化学物質も使用しています。2018年はこのような化学物質による災害事例を教訓とし、製造ラインや作業方法の見直しを進めました。また、同じ化学物質を使用する拠点間で安全対策の情報を共有し、安全対策レベルの向上に努めました。2019年の取り組みとして、これまで自社で進めてきた安全対策レベルの妥当性を確認し、潜在的危険源の洗い出しによってさらなる安全衛生レベルの向上を図るため、第三者機関による安全衛生監査を予定しています。

労働災害防止活動

各拠点の安全衛生委員会は、労働災害防止に向けた活動を拠点ごとに行い、計画的に従業員の教育・訓練を実施しています。また、安全衛生連絡会は、事故や労働災害が発生した場合の緊急時処置についてもマニュアルを整備し、適切に対処できる体制としています。

2018年は、2件の休業災害が発生しました。今後も労働災害はもちろん、労働災害リスクを「0」にするべく、全社をあげて労働災害防止活動に取り組んでまいります。

今後の課題と取り組み

当社では既にISO9001、ISO14001の認証を取得しておりますが、第三のマネジメントシステムとなる労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)の認証取得を検討しています。ISO45001は2018年3月に発行、さらに同年9月にはJISQ45001が発行され、産業界においては今後の認証取得が加速すると思われます。当社の生産活動において労働災害や事故が発生した場合には、事後処理や是正対策に膨大なコストが生じ、その後の生産活動にも大きな支障をもたらします。当社は、労働安全衛生マネジメントシステムの導入を通じて労働災害を未然に防ぎ、従業員が安全で健康に働ける職場づくりをさらに強化してまいります。

tok's
Human
Resource



EHS部 EHS業務室 技師
青木 崇

さらなるレベルアップにより、環境事故と労働災害ゼロを目指します。

当社ではフォトレジストをはじめとした半導体関連製品を製造しており、数多くの化学物質を取り扱っています。それら化学物質の中には、危険物や毒劇物等もあり、取り扱いには十分な注意が必要です。工場では過去の災害事例等を教訓に、製造設備や作業方法の見直しによる安全対策を積極的に

推進しています。今後導入を予定している労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)では、既に構築済みの環境マネジメントシステム(ISO14001)との統合も見据え、効率的なシステム構築とさらなる環境、労働安全衛生水準のレベルアップを図ることにより、環境事故と労働災害ゼロを目指します。